

安全にご使用いただくために

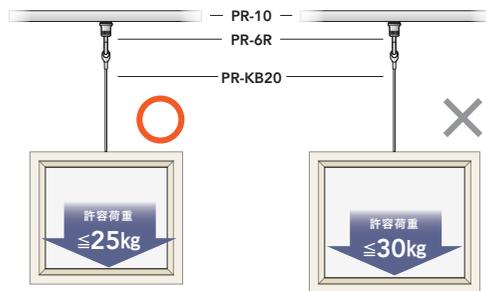
■ピクチャーレールの許容荷重について

ピクチャーレールのカタログ数値は、壁や天井から吊るした時に金具及び壁面にかかる重量限界の目安です。安全にお使いいただく為に、数値を超えた物を使用しないでください。但し、壁の材質及び劣化状態や取付方法により表示の数値以下でも落下することがありますのでご注意ください。

レールタイプ	軽量用	中軽量用	中量用	重量用
推奨最大荷重	~15kg	~25kg	~40kg	~70kg
レール幅	16mm	18mm	30mm	25mm

ワイヤー本数	1本吊り/2本吊り		
	レール	レールフック	ピクチャーハンガーセット
種類	PR-10	PR-6R	PR-KB20
取付パーツ			
許容荷重	25kg	25kg	30kg
最大許容荷重	25kg		

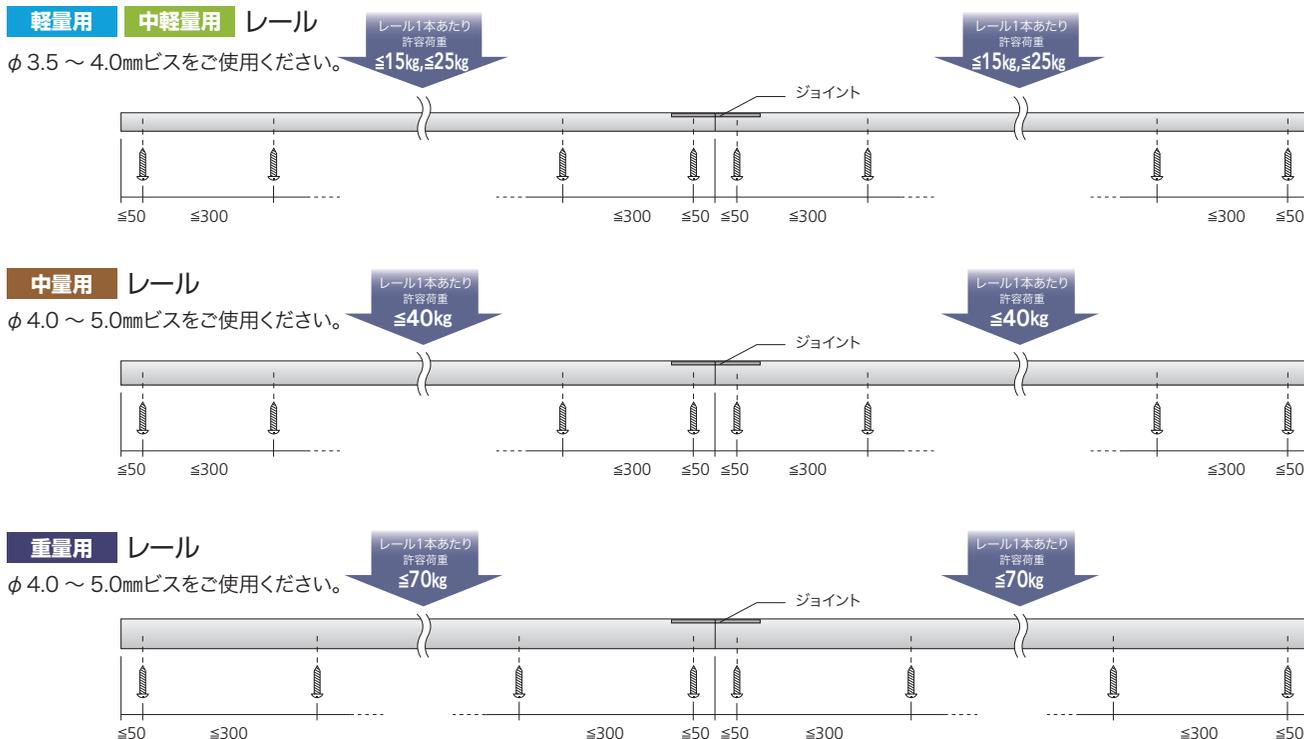
- レール・レールフック・ピクチャーハンガーセットなど複数のパーツを組み合わせて使用する場合は、単体パーツ許容荷重の最も低い数値が最大許容荷重となります。
- また作業中などで不意に全荷重がかかる場合が考えられますので1本分の許容荷重をお守りください。



■ピクチャーレール施工について

ビス止めピッチとレール許容荷重

天井にピクチャーレールを取付ける場合、必ず取付ピッチを300mm以内でビスを取付けてください。
※表示のレール許容荷重はレール自体の強度であり、ビスおよび取付け部の強度は考慮されていません。



- 取付けには天井や壁面の強度を確認してご使用ください。また、強度不足の場合には必ず補強してください。
- 勾配部への設置はしないでください。耐久性を低下させフック破損の原因にもなります。レールとレールフック、フックが直角になるように取付けてください。
- 端部の取付けは、強度保持のため端から50mm以内にビス止めしてください。
- ジョイント部の取付けは、強度とスムーズさの確保のため専用ジョイントピンを使用し、さらに端から50mm以内にビス止めしてください。
- 先付けタイプのレールフックを使用される場合は、レール設置前にセットしてください。※レール取付後は使用不可
- 弊社製ピクチャーレールは、他メーカーとの互換性はありませんので組み合わせて使用しないでください。

■組み合わせによる最大許容荷重について

カタログに表示されている許容荷重を必ず守ってください。

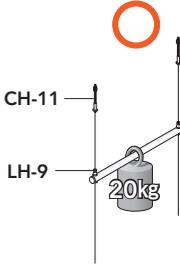
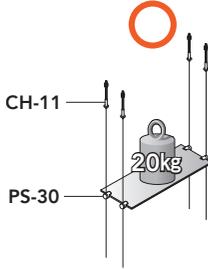
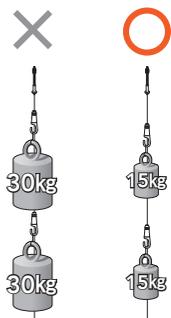
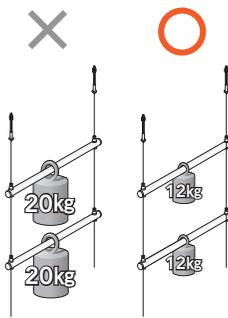
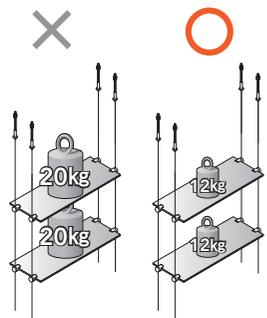
パイプハンガー、ガラス棚、木棚吊りなど複数のパーツを組み合わせて使用する場合は単体パーツ許容荷重の最も低い数値が最大許容荷重となります。また作業中などで不意に片側に全荷重がかかる場合が考えられますので1本分の許容荷重をお守りください。

最大許容荷重の適応例(ワイヤーφ2.0使用)

ワイヤー本数	1本吊り		2本吊り		4本吊り	
取付位置	天井	中間	天井	中間	天井	中間
取付パーツ	CH-11	DPR-01	CH-11	LH-9 <small>2点吊り</small> φ25パイプ使用時	CH-11	PS-30 <small>4点吊り</small>
許容荷重	30kg	40kg	30kg	20kg	30kg	20kg
最大許容荷重	30kg		20kg		20kg	

複数吊りによる最大許容荷重例(ワイヤーφ2.0使用)

※複数吊りの場合は、1本のワイヤーに荷重が集中しないよう各ワイヤーに均等に荷重が加わるようにご使用ください。

1本吊り	2本吊り	4本吊り
 <p>CH-11の許容荷重30kgが適用されます。</p>	 <p>LH-9の許容荷重20kgが適用されます。</p>	 <p>PS-30の許容荷重20kgが適用されます。</p>
 <p>個数を増やした場合、重量が天井パーツに集中するため、CH-11の許容荷重30kgを超えないようにしてください。</p>	 <p>段数を増やした場合、重量が天井パーツに集中するため、LH-9の許容荷重以内でCH-11の許容荷重30kgを超えないようにしてください。</p>	 <p>段数を増やした場合、重量が天井パーツに集中するため、PS-30の許容荷重以内でCH-11の許容荷重30kgを超えないようにしてください。</p>

■推奨荷重の設定に関して

- ①試験の実施 → 荷重試験と引張試験を行った上で、より実用的な引張試験のデータに重きを置きます。
- ②基準値の設定 → 比例限界値を推奨荷重算出の基準としています。
- ③推奨荷重の設定 → 基準値の50%以下の荷重を推奨荷重としております。

《例:ピクチャーレールの場合》

- | | |
|------|--|
| 荷重試験 | レール上部から荷重をかけ、レールの変化を調査・試験。主にレール単体の強度を測定。 |
| 引張試験 | 300mmピッチで土台に設置したレールにフックを取付け、そこにリングワイヤーを引掛けて上部へ引き上げていき、レールの変化を調査・試験。通常の使用時と同じ箇所に荷重が加わるため、実際の使用に即した試験結果が得られます。 |

このように弊社のレールは、理論応力ではなく実践応力に基づき、推奨荷重を設定しております。推奨荷重を守り、適切な施工を行うことで、お客様にはより安全に、弊社のレールをご使用頂けます。



荷重試験



引張試験

⚠ 施工上の注意事項

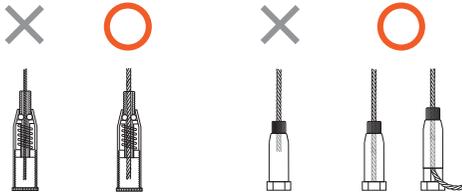
ワイヤーディスプレイ製品は屋内専用です。屋外では使用しないでください。

ワイヤー

- 許容荷重を超える物をかけるような無理な使用はしないでください。
- 許容荷重以内でも複数による集中荷重はかけないでください。
- ワイヤーを再利用する場合には、素線の破断・潰れ・折れ癖・ほつれなど、損傷の有無をご確認の上で使用ください。



- ワイヤー先端部は〈ほつれ止め加工〉を施していますので、この部分を切断しないでください。ほつれ(バラケ)が起こり、許容荷重が低下し、危険を伴うことがあります。
- 対応ワイヤー径より細いワイヤーを使用しないでください。荷重をかけた際に抜ける可能性があります。必ず対応ワイヤー径のものをお選びください。荷重をかける前に、ワイヤーをパーツに充分挿入していることを確認してください。

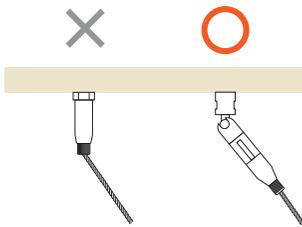


レール・パーツ

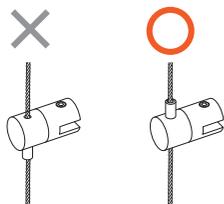
- レールや金具を梁・柱・壁などに取付ける場合は、取付部・下地材の質・強度・および腐敗など材質の傷みを十分チェックし、強度不足の場合は、必ず補強してください。また、ビスの長さ・数量などを考慮して施工してください。



- 許容荷重を超える物を掛けたり吊ったりしないでください。また、許容荷重に余裕をもったパーツをお選びください。
- ワイヤーを斜めに設置する場合には、必ず専用のパーツをご使用ください。



- 許容荷重は静止状態での数値です。瞬間的に荷重がかかると重量保持力が低下しますので、ご注意ください。
- パーツの装着方向(上下)を正しく使用してください。逆方向に使用した場合、荷重を支えられないため、吊り物が落下、破損し大変危険ですのでご注意ください。

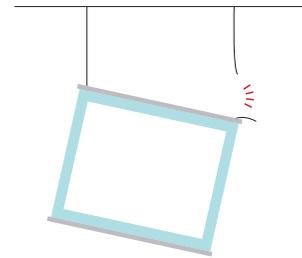


レール

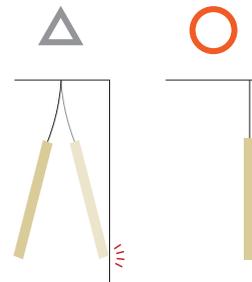
- レールの取り付けピッチは、300mm以内です。
(レールタイプにより異なりますので取り付け前にご確認ください。)
- レールをジョイントする場合は、専用ジョイントをご使用してください。
- ジョイントする時は手を挟んだりしないよう注意してください。
- レールを切り縮めた場合切断面のバリ取りを行ってください。
- レールを上下左右に無理に曲げて取り付けないでください。

展示・作業について

- 垂直吊り・水平吊り・2点吊り・4点吊りなどの使用方法を守ってご使用ください。
- ワイヤー2本で1つの物を吊るす場合も、作業中などで不意に片側に全荷重がかかる場合も考えられます。1本分の許容荷重でお選びください。



- 設置した什器や吊り下げている物などに故意にぶら下がったり、体重を預けないでください。破損や落下等の恐れがあり、危険です。
- 展示物を壁面部以外でのワイヤー1本吊りの際は、揺れにより展示物や壁面を破損する場合がありますので配置位置にはご注意ください。



- 移動させる際は、必ず吊り下げている絵画等を外して移動させてください。
- 施工時は、必ず周りの安全を確保した上で、安全帽や安全メガネ等の保護具を着用ください。また、吊り下げ作業は、事故防止のため、必ず2人以上で行ってください。

